

令和5年度第1回東大和市学校給食センター運営委員会専門部会 会議要録

日時 令和5年10月24日（火）14時00分～15時30分
場所 東大和市学校給食センター 会議室
出席者 部会員6名
事務局 斎藤教育総務課長、青木給食係長、小林主任、半澤栄養士
傍聴者 0名
次第 1 教育総務課長挨拶
2 議題
（1）部会長の選任について
（2）学校給食について
3 その他
（1）今後のスケジュールについて

開会

○司会（青木給食係長）

皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、東大和市学校給食センター運営委員会の専門部会にご出席いただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、始めさせていただきます。

私は、本日の会議の部会長選出までの間、司会を務めさせていただきます、教育総務課給食係長の青木です。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

資料の確認

○司会（青木給食係長）

本日の会議につきましては、東大和市学校給食センター運営委員会規則第6条第4項の規定により準用する同規則第5条第2項の規定により、部会員の半数以上の出席が必要となります。

本日、部会員の半数以上のご出席をいただいておりますので、ただいまから、令和5年度第1回東大和市学校給食センター運営委員会専門部会を始めさせていただきます。

議題に入る前に、本日の専門部会につきましては、只今、傍聴の許可願いは提出されておませんが、会議中に傍聴許可願いが提出された際、審議に支障の無いよう、あらかじめ取り扱いを確認させていただきます。

傍聴につきましては「東大和市学校給食センター運営委員会会議の傍聴に関する取扱要領」に手続きが定められております。

傍聴許可願いが提出された場合に、許可することにご異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ声あり

○司会（青木給食係長）

ご異議がないものと認め、会議中に傍聴許可願いが提出された際、速やかに傍聴を許可いたします。

それでは次第の1、教育総務課 斎藤課長よりご挨拶を申し上げます。

○斎藤教育総務課長

皆さま、改めましてこんにちは。教育総務課の斎藤と申します。本日はお忙しい中、お時間をいただき、また、会議にお越しいただきましてありがとうございます。

本日は、前回の学校給食センター運営委員会での諮問に基づきまして、学校給食の適切な内容についての検討と、それを提供するための学校給食費の見直しの必要性について皆さまのご意見を頂戴していきたいと考えております。

ぜひ疑問に思ったことですか忌憚のないご意見をいただければと思います。

ただ、そのご意見の中で物理的にできないこともあるかと思しますので、そういったところは事務局からご説明させていただき、また事務局からこういうところはどうですかという投げかけをさせていただくこともあるかと思しますので、予めご承知おきいただければと思います。

よろしく願いいたします。

○司会（青木給食係長）

続きまして、議事に移ります。

はじめに、(1) 部会長の選任を行います。

東大和市学校給食センター運営委員会規則第6条第3項の規定に基づきまして、部会長の選任は委員の互選によることとされております。

いかが取り計らったらよろしいか、お諮りいたします。

「司会者一任」と呼ぶ声あり

○司会（青木給食係長）

司会者一任とのことでございましたので、第二小学校校長に部会長をお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

「異議なし」と呼ぶ声あり

○司会（青木給食係長）

ただいま、第二小学校校長が部会長として選任されました。

それでは、部会長に以降の議事進行をお願いいたします。

○部会長

円滑な部会運営に努めてまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

次の議事に移る前に、東大和市学校給食センター運営委員会規則第6条第4項の規定により準用する同規則第4条第3項に基づきまして、部会長において部会長職務代理者を指名いたします。

職務代理者には、第三中学校PTA会長を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、「(2) 学校給食について」を議題に供します。

はじめに、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（青木係長）

表題が「東大和市学校給食センター運営委員会令和5年度第1回専門部会」となっている資料をご覧ください。

まず1、東大和市の学校給食の内容についてご説明いたします。(1) 学校給食の現状についてですが、先日の運営委員会でもご説明しましたように当市の学校給食費は一食単価で比較した場合に小学校低学年は多摩26市中26番目と最も低くなっておりまして、小学校の中学年、高学年、中学生につきましても同様と低い部類となっているところです。

こうした状況の中で、近年は気候変動の影響で野菜の価格が急激に上がることが多く、また新型コロナウイルス感染症などの影響による物価の高騰を受けまして、資料の中ほどに記載していますように物価上昇に対する工夫をしているところでございます。

その工夫と申しますのは、1つ目に、食材の選定において東大和市の物資選定基準を満たしている最低価格の品を主に選定する。2つ目に、野菜については比較的安価な品を中心に使用している。3つ目に、旬の果物に関しましては安価なものを中心に使用しまして提供回数を調整している。4つ目に、精肉について価格の安い鶏むね肉、ひき肉等の使用回数を増やすことでたんぱく源を確保しているという状況でございます。

こうした工夫に対しまして、安価な食材を多用しているため、使用できる食材の種類が少なく見た目の彩りに欠けるといった課題や、特徴的な食材を使用する行事食、郷土料理等といった物が取り入れにくいといった課題があります。やむを得ず国産の食材ではなく外国産の食材を選択する場合もございました。また、豚肉、果物、緑黄色野菜の提供回数が減少しまして、ビタミンの確保が難しいなど栄養摂取面でも課題があったところでございます。

次に(2) 助成金交付による効果ですが、運営委員会の際にもご説明しましたように、国から交付されます新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しまして、市から学校給食食材料費高騰対応成金を学校給食会計に交付する事業を令和4年度と令和5年度に実施しました。これによりまして、例えば多種多様な食材の使用、児童生徒の成長に必要な栄養価の維持、国産品を基本とする食材の調達及び地場産食材活用の推進といった効果が出ているところでございます。

次に(3) 学校給食の食材料費の状況についてです。学校給食の食材料費を見た場合に、同じ献立を提供した場合の令和3年10月時点と令和5年4月時点の一食当たりの食材料費を提示したものがお手元にお配りしているパワーポイントの資料になります。こちらの資料につきましては栄養士の半澤からご説明いたします。

○事務局（半澤栄養士）

栄養士の半澤と申します。よろしくお願ひいたします。

スクリーンに映しているスライドをご覧ください。

今お話していただいた内容ですけれども、校長先生方は毎日給食を検食されていますのでご存知かと思いますが、保護者の皆様はなかなか給食を目にする機会が無いと思いますので、写真も使いながらご説明していきたいと思ひます。

まず、人気の献立ということで、すいかを例に挙げました。こういった季節の果物というのは子どもたちに人気があります。果物は価格が高いものですが、できるだけ季節の食材も取り入れるように考えています。ただ小玉すいかの値段が1人分で約70円かかってしまいます。ほかのミカンやりんご、メロンなどの価格も参考に出していますが、価格はなかなか厳しい状況にあります。

次に、行事食として今年の七夕に提供した給食です。今回は助成金がありましたので、このように子どもたちに七夕ゼリーというデザートも付けることができました。七夕汁の中には星型の麩を入れて、子どもたちに少しでも楽しんでもらえるように考えて提供したところです。参考価格ということでデザート類の価格を一例としてお出ししています。50～60円、高いもので70円です。昨年度も9月から助成金が交付されまして、その時にシャーベットを出すことができ、子どもたちには好評でした。

そして郷土料理ですが、学校給食は子どもたちの教材にもなるようにということで、郷土料理をできるだけ給食に取り入れるように心がけています。ただし特徴的な食材を使うことが多いので、例えば「たこめし」で言いますと、たこは普段給食でなかなか使用しづらいものですが、この時は頑張っただけ使ひまして、1人当たり80円かかっています。

世界の料理ということで、ナンがあります。子どもたちに人気のメニューです。パンですと、食パンやコッペパンといった基準パンと呼ばれるパンを出すことが多いです。参考に1人分の価格を例示していますが、一番安いのが食パンですが、ココア食パンや黒砂糖食パンを提供することもあります。コッペパンや丸パンは基準パンの部類になりますが、パン屋さんで形成が必要になりますので、手間賃を含めてここ数年で価格が上がってしまひまして、50円から60円となっています。さらに何か挟んで食べる場合は、スライスが必要になりますので、スライス代としてプラス4円がかかってしまうという状況になっています。コッペパンや丸パンは子どもたちも何か挟んで食べたほうが、限られている給食時間の中で時間の短縮になる、食べやすくなるということで、その時は残菜も少なくなるので、切り込みが入ったパンをできるだけ取り入れながら献立を考えているところです。

2つ目の世界の料理は人気メニューのラーメンです。ここ数年で中華麺の価格がかなり上昇してしまひまして、テレビでもラーメン屋さんの経営が厳しいというニュースが報道されていますが、それだけ中華麺の価格が上がっています。うどんとスパゲティも一緒に価格を提示していますが、1人分の分量で比べると2倍から3倍近く違ってしまひます。助成金が交付されている状況でラーメンを取り入れることができますが、無いときにはうどんかスパゲティが多くなってしまひ、学校に行くと、子どもたちからラーメンは出ないのかとリクエストされている状況でした。

次に、献立の価格比較でどれぐらい価格が高くなっているかをご紹介して行きたいと思ひます。

今回用意したのは令和3年10月の時の価格と令和5年4月の時の価格を比較したものです。

まず、子どもたちにも不動の人気のカレーです。カレーもルーを作るのに小麦と油を使っているため、その価格が上がっている影響もあり、令和3年と比べると約30円上がっている状況です。また、ココロソテーという料理に使っている冷凍のコーンや冷凍の枝豆といった冷凍の野菜も国産のものを使用しているため、価格は上がってきています。

次にジャージャー麺です。先ほどもご紹介した中華麺を使った料理になります。麺類のときは品数がどうしても少なくなるので、ここでは値上がりの幅は大きくないですけれども、30円ぐらい上がっている状況です。

一番価格の変化が大きいのが揚げ物を使ったメニューです。揚げ物をするための揚げ油を給食センターでは大量に使用しますので、令和3年と比べると50円近く価格が上昇している状況になります。

続きまして、助成金がない場合の献立がどのようなになるかということで例をご用意しました。

1つ目の豚丼、サラダ、白桃缶とさくらんぼゼリーのデザート献立ですと、白桃缶とさくらんぼゼリーのデザートを提供することができなくなってしまいます。こういったデザートがあると、子どもたちは苦手なものもデザートを励みに頑張ってお食べられるという状況がある、とクラスの先生からお話を聞くことがありますが、助成金がない場合はこういった楽しみのデザートがなくなってしまいます。それに伴って、カロリー、正式にはエネルギーといいますが、エネルギー量が約100キロカロリー少なくなってしまいます。国で定められている基準としましては、中学年量で1か月の平均で650キロカロリーを目安とするように定められています。

そして2つ目のカレーの例でいいますと、デザートのコポンがなくなってしまい、エネルギーが約70キロカロリー少なくなってしまいます。

次に、入学お祝いの時に提供した和食のメニューで、お花見汁の中には桜型のかまぼこが入っており、ミニたい焼きをデザートとしてつけていました。助成金がない場合、3点変更になります。まず豚肉の切り身が安価な鶏肉になります。そうすると、豚肉にはビタミンBが豊富に含まれていますが、そうしたビタミン類が取りにくくなるという影響があります。そして、お花見汁の中に入っている、目でも楽しめるような桜ちらしかまぼこのようなちょっと変わった食材は、価格が高くなってしまいますので提供できなくなります。また、子どもたちが楽しみにしているデザートのミニたい焼きもなくなってしまったということになります。エネルギーは100キロカロリーほど少なくなってしまった状況です。

次は食パンと手作りのいちごジャムの献立です。いちごの価格が高いため、いちごジャムが付けられなくなってしまい、食パンをチャウダーかコロッケと一緒に食べるという少し寂しいメニューになってしまいます。エネルギーは50から60キロカロリー少なくなってしまいます。

以上が助成金を使った場合の給食メニューと無い場合の給食メニューのご紹介になります。

○事務局（青木係長）

学校給食の現状に関する説明につきましては以上でございます。

○部会長

それでは説明が終わりましたので、学校給食の内容についての検討を行いたいと思います。

学校給食の内容についてのご意見等がございましたら、挙手の上発言をお願いいたします。

○部会員

今は内容についてだけの検討ということでよろしいですか。

○斎藤課長

そうです。

○部会員

今後、単価の話もあるかもしれませんが、助成金がなければ使えない食材があるという説明がありましたけれども、私たちは学校で毎日食べている身として、今の内容よりも、もし助成金がなくて提供できない食材があるとなるとかなり寂しい給食というのは子どもたちも感じると思います。ほかの学校はわかりませんが、本校では毎日の給食を発信していますので、保護者の皆様もお子さんが食べているもののイメージができると思いますが、もっと良くするかどうかは別の話かもしれませんが、子どもたちにとっても十分楽しみな給食になってきているのは感じています。

多分、保護者の皆様も内容が削られるのを望んでいる方は少ないような気がします。先ほどの話も単価の話になってくるかと思いますが、助成金について保護者はどこまで知っているのかと思います。

献立については、今の食材よりさらに良くなってもらえばいいですけど、今後助成金が交付されなくなったときに単価を下げしてほしいという意見は聞いていません。

あとはこの助成金が無ければ、すいかがなくなるという話がありましたが、もし助成金が使えなかったら少し寂しげな給食になってしまいますよという話でいいですか。

○事務局（半澤栄養士）

そうです。

○部会員

助成金はこの令和4年、5年の2年間で、その前は使っていなかったということですか。

○事務局（半澤栄養士）

はい。

○部会員

この2年間は助成金使えるから食材が少し良くなってます、というふうに捉えていいですか。

○事務局（半澤栄養士）

助成金が交付されていない時に比べたら少し良くなっているのですが、それと同時に年々価格が上がるものが有りますので、助成金が100パーセント給食の質の向上に使えるというわけで

はありません。

○部会員

いろいろなものが高騰があるわけですがけれども、助成金を上手に活用していて、給食の質を維持しているということですね。

わかりました。

○部会長

助成金のことについてどのように周知しているのでしょうか。

○事務局（青木係長）

助成金に関しましては、東大和市のホームページに掲載しています。あと、市報に昨年度と今年度、掲載させていただいております。また、給食だよりや東大和市の教育委員会だよりにも掲載させていただいております。

○部会長

事務局のほうで発信していますけれども、実際のところ保護者の立場の方からはどうでしょうか。

○部会員

あまり知らないです。給食だよりは見ていますが、ちょっと忙しくて詳しく見られていないです。月初めに1回見て、あとは毎日何を食べるのかと献立表を見るぐらいです。

○斎藤課長

このことに関して、行っていることはきちんとお知らせをなさいと、市長をはじめとして、あちらこちらから声をいただいています。今回いただいたお話の内容につきまして、資料を含めて改めて保護者の方へ発信をしたいと思います。

委員からお話がありました、給食の内容が良くなってるかどうかというところは、去年の夏ぐらいいから助成金を含めた献立に変えてきたのですがけれども、それまではすいかやフルーツが月に1回という状態が続いていました。

それが、助成金を市議会で承認していただいたことで学校給食会計に計上できたことによって、月に2回から3回の提供にできました。

子どもが喜ぶ果物などを少し入れてと私からも栄養士に伝えて入れてもらいましたので、先程委員がおっしゃったとおり多少は良くなっていると思います。

○部会長

その他、何かありますか。

○部会員

学校給食費の一覧を見たのですが、東大和市の給食費が安い理由はあるのでしょうか。使っているものや、出しているものが違うのですか。

○斎藤課長

1つにはこのセンター方式で提供していると、スケールメリットにより大量に仕入れることから価格が下がり、少しでも安く食材が入ります。しかし、例えば、ほうれん草などの重量が軽い物は3,000人分の納品を断られることがあります。センター方式のいろいろなメリットやデメリットがある中で、給食費がある程度は抑えられています。

ただ、前回の学校給食センター運営委員会の中でも触れたのですが、平成31年前後に、台風が連続で東北地方から北海道まで上陸したことがありました。北海道でじゃがいもやにんじんなど作っているものが全部駄目になってしまった影響で、にんじんなどが倍くらいの価格になりました。このため給食費の改定が必要と考えましたが、その後新型コロナウイルス感染症が発生し、一旦給食を止めることになり、そうした対応により給食費の改定に関する会議ができなくなったことがございます。

○事務局（半澤栄養士）

自治体の違いについて言いますと、私は先生方と同じように他の自治体を異動してきて、東大和市では6年目ですが、最初に勤務したところが当時東京都で最も給食費が安い自治体でしたけれども、その時は本当に食パンしか提供できなくて、何も付ける物も出せない。パンとウィンナー1本ですとか、白いご飯の時は、おかずがししゃもを焼いたもの1本という時もありまして、その時は保護者の方から子どもたちがかわいそうだというご意見があって、改善のために給食費を考えていきましょうといったこともありました。他の自治体ごとに価格が違うので、どんどん安くなってしまくと給食の内容も寂しくなってしまう恐れがあります。

○斎藤課長

資料の他市の給食費を見ますと小金井市や武蔵野市とは50円ほど違うという中で、提供されている食材はどのようなものだろうと、多摩地区の自治体の栄養士が集まって、そこで給食の試食や意見交換をしていく機会があります。他の自治体の給食について聞くことができますけれども、正直いうと特に東大和市と大差がありません。どうして差が生まれるのかははっきりと分かりませんが、東大和市は調理器具が良くなりましたので、そのへんの違いというものもあるかと思えます。

○事務局（半澤栄養士）

給食センターで言いますと、例えばご飯を東大和市では給食センターで炊くことができますけれども、他の自治体は給食センターでは炊くことができなくて、他の工場でご飯を炊いてもらっている給食センターがあります。そうしますとお米だけの代金の他に、炊飯するための加工費を給食費から補わなくてはいけなくなってしまうので、その分お金が必要になるという自治体もあります。それを考えて加工賃を引くと、結局内容は東大和市と同じになります。

○部会員

おかずや内容が違う訳ではなくて、その他もいろいろと事情が違ってこれだけの差が出てくるのですね。

○事務局（半澤栄養士）

特に多摩地域の東側の自治体を見ますと、調味料などこだわって使う食材を選定しているところがあります。給食費が上位のほうで見るとそういった自治体はあります。

○斎藤課長

昔はひまわり油、今は菜種油を使いますが、やはり油にも値段に差がありまして、揚げ具合に影響があるようで、昔は高い油を使っていた時もあったと聞いています。東大和市は、今は機械が良くなっていて、以前は油の入った細いレーンの中にコロケや唐揚げを入れて、浮かんできたものを押さえていたのが、今は機械で網のコンベアで油の中に潜らせています。常に油の中に入るので、良い油使わなくてもおいしく揚げられます。

○部会長

その他、何かありますか。

○部会員

前回の運営委員会でも質問させてもらいましたが、この資料の一覧の見方ですが、1食あたりの単価は、東大和市は低学年が250円ということになるわけですね。

今提示しているのは40円の助成金を含めてなのか見方がわからなくて、回答がはっきりしなかったと私は思ったのですが、他市も自治体の中で助成金を使っているのであれば、これは入っていない額ならば武蔵野市は助成金を40円プラスして約300円の給食を食べてるのか、先ずこの一覧の見方をもう一回確認をお願いしたいと思います。

○斎藤課長

あくまでも規則上で定められている金額だけの記載です。他の自治体も、それぞれ割合は異なりますが、助成金のようなものを実際は上乗せをしています。その割合はさまざまです。

○部会員

東大和市は何パーセントですか。

○青木係長

令和5年度は19.08パーセントで210円に40円の助成金が付いています。全体として見ますと、今回約4,880万円の助成金で、おおよそ3億2,000万円の食材料費に対して15パーセントくらいです。

○部会員

この一覧はそういう補助金はどこも入れていない自治体も入れているということですね。だからもしかしたら武蔵野市が 260 円と記載してありますが、でも何パーセントかの助成金を使っているかもしれないという、それは自治体で全然違うということで判断すればいいということで、補助金を使ってない自治体をトータルすると、やはり低学年は東大和市が一番低いということだと思いますね。

○斎藤課長

はい。ただし、この表は事務局で独自に各市の規則など基にしているものなので、1 円未満で違ったりすることがありますのでご承知おきください。

あとはこの表に関しては、他市の状況を見ますと、まだ公表されていない情報ですが 7 市くらいがここからまだ価格改定を検討していると聞いております。ですので、東大和市はもっと離されてしまう可能性はありますけれども、ただ価格だけで給食は決められないので、内容をどこまで求めるのか。東大和市は地場産物というと里芋や多摩湖梨といったものぐらいしかないですけれども、地方の新聞を見ると、海があるところでは蟹を使いましたということもあります。もしかしたら、非常に給食費は高いけど食材で牛肉を提供しますよ、などということもあると思うのですが、東大和市としては給食の内容をどこまでを求めるかというときりがない。でもここまでお金が掛かって良ければ牛肉とか良い食材を使いましょう、ということでもいいという答えになるのか、それとも、もう少し給食の内容を抑えながら給食費は変えずに行いましょうという形がいいのか、いろいろな考え方やご意見があると思います。

○部会長

先ほどご説明があったように、センター方式だと大量購入ということで、物資を安く買えることができますね。

私もいろいろな学校に勤務してきて、例えば交通量が激しいところは配送に時間がかかるので、どうしても自校方式でしか行えないような所があって、そこはやはり大量購入できません。自校方式ですと学校で買って、学校で調理するというような方式ですので、その分 1 食単価が上がるのは当然だと思います。そこでの差も出てくるかもしれません。そういうところが往々にあるというふうに思います。

別件ですけれども、もし助成金が付かなかった場合、提供できなくなる食材が出てくるというのはありましたけれども、カロリー計算上例えば 100 キロカロリーや 70 キロカロリーの減になりますけれども、これはある程度基準には則っているのですか。

○事務局（半澤栄養士）

基準が 650 キロカロリーで、1 か月の平均で見た中で 600 キロカロリーから 650 キロカロリーが目安となるので、500 キロカロリーが続いてしまうと基準には満たなくなります。

○部会員

どこかで調整するのも難しいのですか。

○事務局（半澤栄養士）

そうですね。

昨年度の前半は、助成金が無かったので、助成金が無かった時との比較でデータを作って計算しましたがけれど、やはり平均で見るとどうしても基準には満たない状況でした。

○斎藤課長

補足しますと、行政報告書に給食の献立の毎月のカロリーが一覧になっていまして、何月は平均いくつというのがあります。去年の4月の時に、650キロカロリーに満たないということが多くありまして、栄養士に、育ち盛りの子どもに何とかならないのかという相談を昨年したことがありました。例えばカロリーだけを見た時、極端な話をすれば、カロリーを増やしたいならご飯の量を増やせばカロリーも増えるのでできますけれども、ただ残菜が増えてしまうので困るということになりました。

その650キロカロリーに対して、足りなくなってしまうというのが正直なところです。

○部会長

その他、何かありますか。

○部会員

給食費の説明は、この後にあるのですか。

○斎藤課長

この後、給食費のお話も少しあります。

○部会員

内容の検討ということで、学校で私も検食していまして、子どもの様子を見ていますが、今の内容が子どもたちにとってもう基準なのです。保護者も多分学校の給食について発信しているものを見ている方、それを見ていて子どもが食べてきたよというのが基準なので、カロリーを落として欲しいと言う方はなかなか少ないという気がしています。

ご意見を聞いているわけではないのですが、今の基準で他市との比較というのは、何とも分かりませんし、私自身も自校式の学校にも勤めた時も長くありまして、やはり自校方式と給食センター方式に違いも当然あると思っていますが、給食センターも新しくなって食材も本当に充実してきて、いろいろと楽しみの献立も増えてきて、子どもたちも楽しんで食べているなあと思っているので、食材については、さらに欲を言えばもっと変われば良いものがあるかもしれないですけども、多くの方はカロリーを落としてほしいと思っている人はいない気がします。

私の個人的な意見になってしまいましたが、そう考えると今東大和市を見た時に他市と比べて先ほ

どの助成金を付けない時で、食材選びなどいろいろやりながら今まで本当に工夫をしながらも一番下になっている。でも価格高騰があってこの2年間は助成金を使ってきたけれども、先ほどの話でその間価格をどう維持してきたのか、価格はこの2年間でもかなり上がっているではないですか、それをちゃんとお話をして、今イメージとしては、現状維持をしたいというところで説明をして、こういうことって賛否両論ありますので、やはりよしとしない方もいらっしゃるかもしれませんが、私のイメージとしては、大多数はちゃんと説明していただければ納得していただける気がします。

だから助成金がなくなって、価格高騰があるので、今の食材よりはカロリーも内容もかなり下げなければいけないというのは、こっちの方がどうしてという意見が多く出そうな気がしているので、もう一回先ほどのベースに置いて、でもやはり、これはわたしもこの委員会に出席してよくわかってきたと思っていますし、東大和市が26市の中で一番下にいることをほとんど知らないことなので、そこをしっかりとアピールしていただければ、今までの工夫に対して頑張ってくれていたのだと理解していただけるという思いが私にはあります。

○部会長

委員からお話しいただきましたけれども、それに付け加えるという方はいらっしゃいますか。

○部会員

私もこの委員会に出席して、金額の事などを知りましたけれども、すごい頑張っているということを知ってありがたいなと思っていました。

ですので、価格を上げてもらって全然構わないと思っています。

保護者としては、今までの給食から単価を下げるのではなく、やはり維持していただきたいですし、先生も言っていたデザートのこと子どもたちは多分すごく楽しみにしているし、それを目的に「これ頑張って食べよう」とか、そういうことがきっとあると思うので、これから価格の説明になるみたいですが、それも聞きたいと思います。

○部会長

本当に努力されてるのは、話を聞いて感じましたし、それを本当に市民の方とか保護者の方に伝えていけば、多少高くなってもご理解が得られるのではないかというふうには思います。

それでは学校給食の内容についてよろしいでしょうか。

学校給食については検討を終了いたします。

続きまして、事務局から2、東大和市の学校給食費について説明をお願いいたします。

○事務局（青木係長）

お手元にお配りしました、「東大和市学校給食センター運営委員会令和5年度第1回専門部会資料」の2枚目をご覧いただきたいと思います。

2の東大和市の学校給食の状況についてご説明いたします。

まず（1）食材料費高騰への対応について、繰り返しになりますけれども、令和4年度、5年度に

国の新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用しまして、市から学校給食会計に助成金を交付することで、学校給食の質を維持しながら保護者の皆様の新たな負担を増やさない取り組みを実施しているところです。

この助成金額の基礎となる食材料費の高騰分についてですが、令和3年度の食材料費の使用実績を基にしまして、同じ量の同じ食材を使用すると仮定して算出したものであります。

それを示しているのは資料の中ほどの表となります。

この表にあります高騰分の額を基礎としまして、令和4年度は2,251万5千円、令和5年度につきましては4,878万8千円の助成金を東大和市から学校給食会計に交付しています。

次に助成金交付後の1食あたりの食材費についてですが、令和5年度の助成金交付後の1食あたりの食材料費については資料の下の表にあります、1食当たり単価の合計額の欄に記載のとおりとなっております。

なお、この国の新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金につきましては、保護者の皆様の負担を軽減することが目的になりますので、教職員の皆様、学校給食センターに勤務する職員につきましては助成金相当額については自己負担という形になっているところでございます。

説明は以上でございます。

○部会長

説明終わりましたので、学校給食費についての検討を行いたいと思います。

学校給食費についてのご意見等がありましたら挙手の上、発言をお願いいたします。

○部会員

この助成金のことは改めて自分は認識不足だったと思ったのですが、この高騰分の額を基準にして助成金があるということですか。

助成金が高騰分の額を補うためのもので、高騰したものが今までの1食分は上げなくて済んだのはそういうことだということですよ。

今後、助成金はなくなる方向ということによろしいですか。

○斎藤課長

助成金につきましては、令和4年度と5年度で交付を実施しました。

令和5年度につきましては、1回目は今年の3月の市議会で補正予算を組ませていただきましたが、その話が上がってきたのがだいたい今くらいの時期でした。

来年度につきましては、私たちも調べられる限りいろいろ照会して情報収集をしていますが、今はそのような情報がないという状況であり、来年度は助成が見込めない状況となっております。

○部会長

国のほうから、いつ決定するかというのはわからないわけですか。

○齋藤課長

突然に国から示されるということもありません。ですが、そうした情報があるときは、その前段として情報提供が来るなどいろいろ動きがあるものですが、今のところそうした情報が皆無ですので、今はないのだろうと認識しています。

○部会長

ありがとうございます。

○部会員

令和4年度と5年度の助成金が出る前には、物価の高騰が始まっていたと思いますが、その頃にはどのような対策をしていたのですか。

○事務局（半澤栄養士）

令和4年度の前半に関しては、後半に助成金が入りそうだという情報が入っていました。実際に助成金を活用できるようになったのは9月の献立からですので、4月から7～8月頃までは非常に苦しい状況でした。後で調整できそうでしたので、ギリギリのところではなんとかやりくりはしていました。

例えば、野菜でいうと、もやしを多く使ったり値段の高い葉物野菜を控えたりして、肉は鶏むね肉を使ったりして、地道な部分での努力と工夫でなんとかやりくりをしていました。それまでは玉ねぎやニンジンなどを頼りにしてたのですが、最近の気候の変動のために玉ねぎやニンジンも高騰するようになってきてしまいました。玉ねぎやニンジンの値段が高いと本当に大打撃で、もやししか使えないような状況です。以前はキノコ類も価格が安定しているので頼りにしてたんですが、給食センターで使うキノコはどうしてもカットしてもらわないと使えない。給食センターで全部石づきを落とす作業をするとどうしても間に合いませんので、カットした状態のキノコを仕入れているわけですが、そういった関係で人件費や加工賃が上がっている影響からキノコ類もかなり高騰していて、量があまり使えなくなってきている状況です。

○部会長

ありがとうございます。

○部会員

今、助成金が40円くらいとのことですが、例えば給食費が上がるとしたらその40円分が上がるということでしょうか。それとも余裕を持ってもう少し上がるのか。1食分だと250円になりますが1か月分にするともやはり負担が増えるというのはあると思います。私の家でも、食べ盛りですので、食べるものは体を作るものだからと少し無理して、野菜は高くても食べるようにはしています。比較的安いものを選ぶようにしていますが、それでも食費は上がっているという状況です。

○斎藤課長

今の給食内容を維持すると、ある程度フルーツや子どもたちが好きなカップケーキを出したり、あるいはたい焼きを出したり、少しでも子どもたちが楽しく食べられるように工夫ができるのが今の状態です。この表にあるこの金額にもし改定をするということになれば、その献立を出せるという状態になります。ただその余裕の取り方については様々な議論があると思います。

今の給食費が40円上がってさらに10円上げると、子どもたちが完食が絶対できるかということということであればいいんですけど、やはり味覚は人それぞれなので、難しいと考えます。

○事務局（半澤栄養士）

40円というのは確かに月額で見ると少し負担は大きくなってしまおうと思いますが、40円で余裕があるときには子どもたちも楽しみにしているデザートを付けることができるんですが、余裕がないときはギリギリのところですよ。

例えば9月や10月は先ほどもお話ししたように玉ねぎの価格が高騰していて、本当に赤字になるかならないかの状態です。40円の助成金があっても、ギリギリの所でやっているという状況ですので、気候変動による急な価格高騰にも問題なく対応できる価格というのを考えますと、40円は必要だと考えます。

○部会長

ありがとうございました。

ほかに給食費に関してご質問等いかがでしょうか。

○部会員

そこをしっかりと分かりやすく発信することが大事だと思っています。

今の東大和市の給食の内容が他市と比較していろいろ言うのはなかなかできないと思ってます。

私自身いろいろな市で勤務していますが、子どもたちにとって今の給食の内容は一つの基準になっていると思ってます。

食材の価格高騰は皆さん周知していることで、その中で、東大和市は本当に頑張っていて、低学年の210円の基準額は今までずっと維持してきたのは、価格高騰で食材もしっかり用意してあげたいという子どもの給食の充実を図りたいという気持ちを、わかりやすく説明していただいて、先ほども話にあったようにこれが40円で済むことなのか、それとももっと上げなければいけないのかはまだ分かりません。確かに1か月で見ると約1,000円までいかないですけども、それぐらいの額が増えることになるので、説明を丁寧にわかりやすくしていけば、保護者に理解していただけると思います。

なかなかこういう会議に出ないと分からないことがいっぱいありますし、東大和市が26市の中で一番下にいることを知らない方がほとんどなので、そこを丁寧に説明していただきたいと思います。

○部会長

前の話と繋がる部分があるかと思うのですが、やはり丁寧な説明をすることによって理解が得ら

れるのではないかと私も思います。

特に市長からはこれに関する助成金ではありませんが市としての方針のようなものは特に出てないですか。次年度に同じような援助や助成をするということはあるですか。

○齋藤課長

今のところ方針等は決めておりません。

○部会員

検討部会の委員になる話を受けさせていただいて、その理由は、もちろん細かいところを詳しく知りたいというのがありますけれど、結局のところ、値上げをしたいのですよね。

値上げをしたいけれども、その理解を得たいから、多くの校長先生方や保護者の意見を聞きたいと思って私も参加してるのですけれども、難しい話は正直わからなくて、他の市と比べてみてどうか単価がどうかというのは正直あまりよくわからなくて、多分多くの保護者もこれを聞いてもピンとこないし、難しい手紙を配布されても、どれだけの人がこれに目を通して見ているのかなというのが私の意見です。

それで今日参加して東大和市がすごく頑張って作っていらっしゃることを、今回聞いて、初めて「あ、すごい大変な思いされてるんだな」と思いました。

私の家ではアレルギーのため、小麦を食べないので、代替えを毎回持たせています。パン、麺、全部です。麺だと1食当たり1人250円から400円かかります。それを毎回麺のとき、中華麺のときは、米粉麺を茹でて持って行くので、他の家庭よりも倍以上、給食費としての費用がかかっていますけれども、給食費を納めています。

それはうちの個人的な問題なので、値上げをするということには全然反対ではないのです。

子どもたちの食事というのは本当に大事だと思いますし、体づくりの基本だと思います。

私は6人子どもがいて、多く給食費がかかるとしても、喜んで払います。自分の何かを削ってでも。ただ、国や市がもう少しどうにかする呼びかけをするべきではないかと、私はお話を聞いていて思いました。

もちろん保護者になるべく負担をかけないようにというお考えがもちろんあるのもよくわかりますけれど、もう少し子どもたち、これからのこの国を担う宝だと私は思っているので、市や国に呼びかけられるなら、もう少し強く訴えてほしい、という意見を私は唯一挙げられるのだとしたらそこを一番言いたいなと思いました。そこで助けてくれない国ってどうかな、と思います。

東大和市としても、子育てしやすいまちと謳っているのに、この給食費1人当たり月1,000円近い値上げを、保護者に負担させるというのはもちろん一般的なことですし、それが当たり前だと思いますけれど、それを子どものために何もできない市ではないのかなと、ちょっと残念な気持ちになっているというのが本音です。

○部会長

ありがとうございます。これも貴重なご意見ですね。

○齋藤課長

ありがとうございます。

いろいろなご意見をいただいている、先ほど他の委員からも指摘がありました、皆さんがこんなことになっていると知らなかったというのと同じように、私どものほうで周知が不足しているところがありまして、国に働きかけをするときに、一自治体が動いてもほとんど効果はありません。

そこでどんなことをしているかといいますと、関東地区や全国の市長会のほうから、国に要望書を今上げています。市議会でもよく言われますけれども、学校給食というのは国の責任において自治体格差を生まないといった考えからきちんと国が補助をするべきだろうというのが今、全国的に広がっています。

市長会などで東京都を通じてなりますが、国に要望書を上げているところです。

もう一つは、国が行うには時間がかかります。それまでの間に東京都で、東京都での対応を検討してほしいという要望書が今年出されたところでございます。

○部会員

その要望書というのは、要するに23区だと給食費を無償にしますというのがありますよね。そういう事案で行くのか、それとも助成金をもっと出してください、という事案で行くのか。

○齋藤課長

基本は無償のほうです。

○部会長

他に、給食費に関していかがでしょうか。

○部会員

給食費は今までどのように値上がりをしているのですか。東大和市の変遷のような、いつぐらいから210円なのですか。

以前に、大きな額ではなくて、今度少しだけ値上がりしますみたいなのがあったな、と自分の中でイメージがありまして。だから他市のほうはわかりませんが、途中途中で値上がりをしてこの額になってるのか。先ほども言ったように、東大和市が本当に頑張って1食210円で行ってきたけれども、やはり必要額を説明して子どもの栄養価も考えて、必要だと思いました。順繰りに上手に行わないと、突然値上がりした感じが出てしまうというのは聞いていて感じました。

○齋藤課長

平成26年の時に、消費税が5パーセントから8パーセントに変わったときに、単純にその3パーセントの分だけ改定したのが直近になります。

ただ、消費税改定なので、結局仕入れ価格もその分同じように上がっているというのがあります。

○部会員

消費税が何パーセント上がるというのは国全体のことで、これは頑張りようがありません。もう値上げという意味ではなくて税金なので、食材費が上がるのですが、そこで食材をやりくりしてきたというほうが、私はかなりご苦労されたのだと感じました。

それで徐々に上げれば、大きな差がないのかなという気がします。

○部会員

この会議の着地点は何か。着地点がないままでこのメンバーで話しても千人で話しても何人で話しても結局空中戦になるわけで、着地点は無いと思います。正解は無いと思います。

食材の量を減らしても質を上げてほしい、彩りのある給食にしてほしいというご家庭もあるかもしれないし、でもある中で提供していかねばいけないので、私だったら食べる質を担保する、金額を上げたいというお考えがあるのであれば、きちんと私は素人なので、根拠がないので、高くするのか安くするのか何を基準とするのか私が申しあげても説得力がないので、しかるべき機関にきちんと諮問して、オーソライズしてもらって、東大和市としては40円上げますよ、と。例えば上げないで今の施策を踏まえたうえで、この金額で行いますよ、と。申し訳ないけどその足りないところはご家庭の工夫などで、まずそこを固めてもらえば良いのかと思います。

市としてどちらで考えているのかずっと分かりません。少なくとも私が区部で勤務をしている時は、大使館が多くある区だったので、一つのクラスが30人ちょっといて、いろいろな人種や文化的背景の子がいるので、20食ぐらいが個別の最適な給食になります。宗教によって、トレイの札にその子用を、この子はこの宗教だからこれは食べてはいけません。それを専門業者に全部年度当初に入札かけて、その代わり金額はここに出てくるような金額ではない。ただ区部なのでお金の桁が違い潤沢で何の問題もないのですが、それが良い悪いではなくて、それを与えられた中で行っていかねばいけないのです。

東大和市や市部が、市としてこう考えていますというのも諮問した上で、考えを示したものを見える化してもらおう。私も先ほどお話の中で、私が普段学校で発信するとき、保護者様に周知するときもそうですけれど、いっぱい書けば書くほど誰も読みません。

私も役所務めしている時に、上司に散々言われてきました。「そんないっぱい書いても、書けば書くほど読まないよ」、と。保険の約款と一緒に、誰も読まないから文字を極限まで減らして、見える化してあげて、分かりやすい数字と絵でもって、こういう考えですというのを、1回だけだとみんな忘れてしまうので、2回、3回、4回と、1年かけて啓発していきながら、今こう考えていますというのをどんどん示していけば、いろいろな声も出てくると思います。ですから諮問するということと、今こういうふうに考えていますというのをどんどん示してあげれば、それだけでも随分違うのかと思います。

私も前回の運営委員会に出席した時に26市の順位が出てきたときに、こんな状態なのだと思いました。これは誰も知らない数字ですし、だからといって出したところで見ると見るけど、見ない人はたくさんいると思います。

やはり市の考えを分かりやすくして皆さんに見ていただいて、一緒に考えましょうというスタンスで行っていくしかないと思います。どちらで行っても絶対いろいろな意見が出てくるので、それ

を皆さんで考えてみましょうというような流れで進めていくと、皆さんも当事者意識を持つのではないかと思います。

○斎藤課長

今、ご意見いただきましたとおり、ある程度子どもたちに必要な栄養価を何としても確保してあげたいと、それも完食しての話なのでそこは私たちも本当にボトルネックだと思いながら、おいしい給食を提供したいと考えているのですが、先ほどの栄養士の説明で、給食費をこのままにしておかずを減らすということも可能ですという話もありました。自治体にもよりますが、牛乳は1本58円です。その牛乳1本で、1日の必要なカルシウム半分を賄っているのです。牛乳は子どもたちの骨がどんどん成長していくのに必要な物です。やはり必要な栄養価を確保しなければいけません。

結論として至るのは、校長先生からご意見をいただきましたけれども、栄養価を確保するためにも価格改定はやむを得ないのではないかというのは根本にはあります。今回はある程度こういう現状ですということのご説明と、皆さんの給食に対する意見を伺ってというのが、この第1回の内容と考えていたことでした。先ほど委員の皆さんがおっしゃったように、次回の第2回の会議までに、本日、いただいたご意見をもとに分かりやすい資料をご用意して、またお諮りをさせていただくというのはいかがでしょうか。

○部会長

このように出されましたけれどそういう形でよろしいですか。

全員首肯

ではそのようにお願いしたいと思います。

給食費については以上でよろしいでしょうか。では給食費については終了いたしますので、事務局は次回の専門部会までに、本日の会議からのご意見や検討内容に基づく資料の作成をお願いいたします。

それでは、3、その他として次回以降の日程について事務局からお願いいたします。

○事務局（青木係長）

今後のスケジュールでございますが、第2回の専門部会は11月7日の火曜日に予定しております。

○部会員

都合が合わない場合は出席できませんが、いいでしょうか。

会議の予定が重複しているので、それはそれで構わないということよろしいですか。

○事務局（青木係長）

はい。次に第3回の専門部会としまして、11月21日を予定しております。また、第2回運営委員会は11月28日を予定しておりますのでご承知おきいただければと思います。よろしくお願いたします。

○部会長

ご質問はよろしいですか。

○部会員

時間は何時からですか。

○事務局（青木係長）

今日と同じくらいと考えております。また追ってご連絡いたします。

○部会長

14時からということですね。変更があればこちらもまたお知らせいただけるということで。

○事務局（青木係長）

はい。

○部会長

ありがとうございます。

それでは、これもちまして令和5年度第1回東大和市学校給食センター運営委員会専門部会を終了いたします。

お疲れ様でした。